

全国学力学習状況調査の結果から見える子どもの姿

◇シリーズその10◇（家庭と学校の連携）

一昨年度より学力学習状況調査の結果から見える子どもの姿についてシリーズでお伝えしています。学校では子供たちの学力の課題について真摯に受け止め、分かりやすい授業を展開するなど具体的にできることを地道に実践しています。

しかし、「確かな学力」の向上は学校だけで実現されるものではないと考えます。

そこで、家庭における毎日の生活について見直してみることも必要と考え、保護者の皆様には釈迦に説法で恐縮ですが、あえて家庭での取組について書かせていただきました。見直しの視点として、ご活用いただければ幸いです。



1 生活習慣について

(1) 望ましい食習慣を身に付けさせる

<ここがポイント>

○国の行った調査結果から、「朝食を毎日食べる子供」は、学力テストの成績がよいことがわかります。

○朝食をきちんと食べて登校させましょう。

○バランスのとれた食事をとることは、成長にとって、とても大切です。

(2) 前日に学校の準備をさせましょう。

<ここがポイント>

○朝、一人で起きられる習慣を身に付けさせましょう。目覚まし時計を自分でセットするなどの工夫もあります。

○学校の準備は、朝ではなく、夜寝る前にすませるようにしましょう。

○朝、落ち着いた気持ちで余裕をもって登校することが、集中して学習に取り組むことにつながります。

(3) 家庭での時間の使い方を相談しましょう。

<ここがポイント>

○テレビやゲームなどの時間を親子で相談し、時間の使い方にけじめをつけられるようにしましょう。

発達段階に応じて家庭学習の時間を設定することが必要です。

○テレビを消す時間を決めて実行することにより、親子がいっしょに過ごす時間を充実させることができます。

○年齢に応じた適切な睡眠時間を決めて守らせることが快い睡眠につながります。

2 子供とのかかわりについて



(1) 親子でいっしょに本を読みましょう。

<ここがポイント>

- 家庭で、親子いっしょに本を読む時間を作りましょう。
- 小学校低学年の子供には、特に読み聞かせが効果的です。
- 図書館や本屋に行く機会を設けましょう。
- 親が読んだ本を子供が読み、子供が読んだ本を親が読むというような読書交換をしてみましょう。

(2) 親子でいっしょに勉強しましょう。

<ここがポイント>

- 低学年では、宿題をいっしょにしてあげましょう。
- 国語の本読みをするとき、親子で声を合わせていっしょに読んだり、まず親が読んでその後に子供に読ませたりすると自信をもって読めるようになります。
- いっしょに勉強することによって、子供のつまずきに気づくこともできます。

(3) ほめて、認めて、励ましましょう。

<ここがポイント>

- ひとつでもできるようになったことを大いに認め、ほめてあげましょう。
- 自分から勉強している姿を見つけたら、積極的にほめて、励ましてあげましょう。

(4) 家庭での学習環境を整えましょう。

<ここがポイント>

- 子供が落ち着いて学習できる環境作りを心がけましょう。勉強部屋が必ずしも必要なのではなく、大切なのは安心して学習できる場を用意してあげることです。
- 例えば、地図帳をテレビのそばに置いておき、番組で地名が紹介された時に、いっしょに位置を確認するなど、学習に関連するものを意図的に置くのも効果的です。

子供のしつけについて（間違っただけは叱る）

いけないことをいけないと思わない子供たちが増えています。「自分さえ良ければいい」「ルールを守らない」という人は、なかなか人から信頼されないものです。間違っただけは本気で叱り、その場で正すことが本当の愛情だと思います。

「自分の子供だけ良ければいい」という考え方（自子主義）はやめ、叱るときには何がいけないのか、理由をきちんと伝えましょう。また、気分や感情に流されず一貫性をもって叱ることも大切です。そして、親自身もルールに反することはしないように気をつけたいものです。子供に信頼され、尊敬される親であり続けるためにも。



「早寝早起き朝ごはん」と「家庭学習の定着」で学力向上

文部科学省の調査等によると、午後10時以降も起きている6歳未満の幼児は29%にのぼり、それが小中学生になると、もっと夜型になるそうです。また、朝ごはんを食べないことがある小学生は15%、中学生は22%にもなるそうです。

昔は当たり前だった「早寝、早起き、朝ごはん」について、その重要さが見直されています。一般的に人間の体内時計は日の出、日の入りの自然のサイクルに合うようにできています。夜型の生活から朝型の生活習慣に戻すことで、自律神経失調症などを克服する健康法もあるようです。

健康面だけではなく、学力向上にも役立つことも証明されています。学力向上について多くの本を出されている元小学校長の陰山英男さんは、保護者と協力して夜ふかしの原因になりがちなテレビを見る時間を「2時間以内に」と決め、朝型の生活習慣を確立させました。

その結果、小6の半数が、午後9時半まで寝るようになり、朝ごはんを抜く子はほとんどいなくなったそうです。

朝は一日で最も集中力が高まる時です。「読み書き計算」などの反復学習をすると、より効果が大きくなります。学校では朝の授業の集中力を高めた結果、その年の県の国語と算数の学力調査では、県平均を10点以上、上回ったそうです。

朝食の効用は過去の国の調査でも明らかになっています。朝ごはんを食べる子供が食べない子供より、体力だけでなく学力でも優れているという傾向がでています。

子供の生活習慣は、大人の価値観の裏返しであるとも言われます。大人が朝ごはんの大切さをしっかり実感しなければならぬと思います。朝ごはんは、学力、体力、気力の源であります。

7月に入り、いよいよ国語、算数などの学習に力が入る時期を迎え、この機会に「早寝、早起き、朝ごはん」に家族ぐるみで挑戦してみましょう。

現在、街には24時間営業の店があふれ、テレビ番組は朝まで続きます。ゲームやネットは日常的に入り込んでいます。子供たちを眠らせない社会の責任も大きいと思いますが、家庭は「教育の原点」であり、子供の生活に関する責任の多くは親や家庭にあると思います。

学校は、保護者の皆様、地域の皆様にご理解とご協力をいただきながら、子供たち一人一人に「確かな学力」をしっかりと定着させるよう全教職員で努力してまいります。

ご家庭でも「早寝早起き朝ごはん」とあわせて、「家庭学習の習慣」を定着させていただければ幸いです。